

三歳児のクラスで、数人の子どもがやおやさんごっこをしていた。そのとき、一人の子どもが紙で作った野菜を全部買って籠にいれてもって行ってしまったので、店で売るのがなくなりました。そのままだったら、やおや遊びはつづかなくなり、子どもたちは散ってしまつたであろう。先生はそのことに気がついて、買った野菜をまたかえせば、みんなで遊べるでしょうといった。三歳児にとっては、一度手にしたものを手離すということはやさしいことではない。しかしそれをすれば、遊びがづくのでそのような提案をしたところ、その子どもは顔をあげて、「そうだね、そうすればいいんだね」と先生の顔をみたのである。

その場で、先生は子どもにわかつてもらった喜びを感じ、おそらく子どもも新しい世界を発見したに違いないのである。

これはたまたま子どもが遭遇した一つの場面である。そして子どもはここで重要なことを学習したのである。

人間の生活の中には、ところどころで、新しい世界がひらけるための飛躍がある。自分でほんとうにわかつたと思える時があつてはじめて、子どもは発達していくのである。そのためには時間をかけなければならぬし、自分で探し求める期間も必要である。幼稚園の生活でも、それぞれの子どもがどこかでこのような経験をするに よつて、幼稚園が子どもの生活の中で生きてくるのである。

現代はおとなにとっては忙しい時代である。しかし、子どもには、子ども自身が発達していくゆとりを与えよう。おとなのプログラムで追いまわすことなく、子ども自身のペースで歩むことができるように、子どもの生活を守ることが、現代にとくにたいせつではないだろうか。

一九六九年を迎える。幼児の生活が、ゆとりのあるものとなるように、幼稚園が本当に幼児の発達の間となるように願うものである。

## 幼児の教育 第六十八巻 第一号

一月号 © 定価八〇円

昭和四十三年十二月二十五日印刷  
昭和四十四年一月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 にお願いたします